

論文審査の要旨

報告番号	甲・ <input checked="" type="checkbox"/> 第 3129 号	氏名	鷺見 賢司
論文審査担当者	主査 青木 淳 教授 副査 新家 俊郎 教授 副査 松山 高明 教授		
(論文審査の要旨)			
<p>脳梗塞発症・再発予防として、頸部内頸動脈狭窄症に対する頸動脈内膜剥離術（Carotid Endarterectomy ; CEA）は、エビデンスに基づいた効果的な治療法である。手術中の頸動脈遮断に伴う虚血性合併症を回避するため、総頸動脈と内頸動脈をつなぐ内シャントを全例に使用すべきかどうかに関してはいまだ議論がある。筆者らはほぼすべての症例において内シャントを使用し（routine shunting）、術後画像所見や周術期合併症に関して検討した。対象期間中 255 例の手術が施行され、術後症候性合併症を認めたものは 4 例（1.6%）であり、その他はいずれも無症状で経過良好であった。また内シャント全例挿入に伴う合併症（空気塞栓症、神経障害、血管解離、血腫形成 等）についても他の報告より低く抑えられていた。これは統一された手術手技および入念な止血操作によるものが大きいと考えられた。また頸動脈遮断時間に左右されないため、経験の少ない術者も経験豊富な術者と同様の安定した手術成績を残すことが可能であった。本邦において、CEA 術中の内シャント使用について大規模な症例数をもとに系統的に検討した報告は過去になく、本論文には学術的価値があり、学位論文に相当するものと判断した。</p>			
<p>論文題名： 内シャントを全例に使用した CEA に関する検討 - 無血で安全な手術手技と治療成績に関して -</p>			
<p>掲載雑誌名： 脳卒中の外科 49 巻 3 号 2021 年 掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)